

令和6年度東京都ドクターヘリ部会 第1回

<議事要旨>

1 会議概要

(1) 開催日時

令和7年1月30日（木） 17時30分から18時51分まで

(2) 開催方法

対面及びオンライン会議

2 議事内容

(1) 部会の概要について

- ・ドクターヘリ運航事業の実績等について振り返りを行い、事業効果や課題の改善、都民や自治体等への正確な情報発信、多数傷病者への対応に備えて訓練等を通じた広域連携の必要性などについて、質疑、意見交換（資料2-2）
- ・会議の公開について、委員からの発議により、議事録については、議事要旨として公開することの提案があり、委員の同意を得た。

(2) 事務局説明

- ①東京都ドクターヘリ運航事業の現状（資料3-1～3-3）
- ②東京都ドクターヘリ運航事業の振り返り（資料4-1～4-3）
- ③有事に備えた活用（資料4-4）

(3) 主な意見等

① 運航概要・実績について

- ドクターヘリの発進基地（立川）が各病院から離れた場所にあり、毎朝医療スタッフが病院から必要な医薬品を持ち運んで体制の確保に尽力して、これまで事業を実施してきたことについて、委員から感謝の声があった。
また、令和5年度の診療数306件について、多くの診療実績であると評価する意見があった。
- ヘリコプターの搬送先について委員から質問があり、令和5年度70%が杏林、協力病院が28%、その他が2%と基地病院から回答。
- ドクターヘリの搬送患者を受け入れることによる病院の3次救急に負担がかかっているのか質問があり、大きな負荷がかかっているわけではないが、患者が遠方に住んでいる場合には、帰宅に向けた調整が必要になると、基地病院から回答あり。

② 出動判断について

- ドクターヘリが出動したものの診療に至らなかった件数について、もう少し通報の中身を聞いた上で、要請を出すというやり方を検討できないかと、東京消防庁に対して、意見あり。
- 現在一律に運用しているが、地域ごとにキーワード方式で出動する地域と救急隊

の現着後に要請する地域を使い分けをするやり方を検討できないか、という委員からの意見あり。

この点について、現在でも奥多摩地域に関しては、救急隊が現場で判断してもヘリに有用性があることから、現着後に要請しているケースがあると、基地病院から回答

③ ランデブーポイントについて

- ランデブーポイントの数について今後の方向性に関する委員からの質問に対して、地域偏在の解消のために新規のランデブーポイントの確保に取り組んでいくことと、有効に活用できていない場所については実効性を担保できる取り組みを進めていくと、事務局から回答
- ランデブーポイントが使用できないことによるキャンセルについては、ランデブーポイントの分布や、当番制など、このポイントは使う可能性があるから連絡できるようにしてもらいたいなど、使用できるような工夫をすべきと委員より意見あり
- ランデブーポイントを確保できないことによるキャンセルのうち、85%が土日祝日であるという点について、その原因を分析し、課題を解決できるよう取り組んでいくべきとの委員より意見あり。
- ランデブーポイントに関して、緊急離発着場の活用など、対応しやすい場所を選ぶかどうか、また、救命センターの離発着場を使い、病院間搬送も行っていくことになれば、より理解を得やすくなるのではないかととの意見あり。
- ゴルフ場など、ドクターカーや他の搬送手段では特に時間がかかる場所をランデブーポイントとすることで、細かなドクターヘリ活動を期待したいとの意見あり。

④ ドクターカーとの比較について

- 都内のドクターカー運用もキーワード方式で出動することになっている。都内9施設でみると、重症が23%、不搬送が17%、軽症・中等症が60%であると、委員から説明あり。
- 他県と比べて病院が近くに所在する東京都の特性上、キーワード方式を採用することは理にかなっており、医師の早期介入の重要性を都民に広く周知していくことで、ドクターヘリの迅速な出動についての都民からの理解を得やすくなるのではないかと、との意見あり。
- ドクターカーも、出動後にキャンセルになってもそれほど問題にならないが、ドクターヘリは事業が高額で費用対効果を考えないといけなため、定期的な事後検証を行うことが重要と意見あり。

⑤ 有事に備えた活用について

- 災害時に有効に活用できるように、訓練に定期的に参加すべき、また、ヘリでのピストン輸送なども効果的と考えるので、東京でも積極的に検討を進めてほしい、と意見あり。

- 他県が被災した際に、他県の保健医療福祉調整本部の指揮下に入るようになることも想定して訓練をしておいたほうがいいのではないか、と意見あり。
 - 隣県との連携に関して、有事に限らず、他県でもやっているように日頃から連携できるような協定の締結にも取り組んでいただきたい、との意見あり。
 - ドクターカーやドクターヘリなどの病院前救護活動については、東京都メディカルコントロール協議会でも取り扱っていくことを検討すべきではないか、と委員から意見あり。
- 都の救急医療体制について、どのような場で検討していくべきか、整理していきたいと事務局から回答。

※各テーマについて、示した方向性に沿って調整を進めていくことについて、部会の中で了解を得た。